

平成26年度第2回政策会議

日時 平成26年8月19日（火） 11:00～12:00

会場 市長会議室

参集者 工藤市長 中林副市長 片岡副市長 山本教育長 秋田企業局長
谷口企画部長 川越総務部長 山田財務部長

2. 大川中学校跡地を活用した市営住宅の整備について

◎対応 平井都市建設部長 内藤都市建設部次長 福田まちづくり景観課長
神住宅課長 扇谷まちづくり景観課係長 忠岡住宅課主査

◆ 議題の趣旨 ◆

中学校の再編により廃校が予定されている大川中学校の跡地の活用方法について、内容を協議しました。

◆ 協議の結果 ◆

整備計画の年次等について、再度検討の上、大川中学校の跡地に市営住宅を建設することについては了承されました。

◆ おもな発言 ◆

□神住宅課長

公営住宅の長寿命化計画に掲載している、松川団地および田家B団地の建替えについて、老朽化により、現在地に合計192戸を建設する計画としていたが、大川中が平成28年3月で廃校予定ということが示されたので、跡地を利用して、それらを統合した計画に変更したい。

メリットとしては、現居住者が、建て替え時に、一時的に別の場所へ住み替えることが不要になり、一時転居に係る費用の負担が軽減されることや、市営住宅建替えの際に行う解体は、国の交付金の対象となるため、仮に大川中学校の跡地を利用する場合、校舎解体費の負担軽減が見込めることなどが上げられる。

現段階での整備スケジュールについては、平成27年に基本計画と基本設計を行い、平成28年に1棟目の実施設計、平成29年度に建設、以後順次30年、31年、32年と4年間で4棟建設する計画としている。建設後、順次田家B団地、松川団地、港3丁目改良団地、中道2丁目団地の入居者の住替えを行い、既存団地の用途廃止を進めていくこととしている。

■平井都市建設部長

大川中学校の調理場部分については、廃校後も、平成30年3月まで使用する予定となっているので、現段階の整備スケジュールでは、調理場と体育館の部分を残しながら、順次建設に着手することを想定しているが、校舎等を一括で解体した方が、解体費全てが交付金の対象となるなどメリットもあり、その場合には、整備スケジュールを遅らせる必要がある。

■工藤市長

30年に一括で解体すると、31年建設着手、2年遅れるということか。

■平井都市建設部長

そういうことになる。

■工藤市長

校舎等は、調理場使用後に一括で解体したうえで、効率的に配置できる方法を考えた方がよい。

■平井都市建設部長

校舎側とグラウンド側には高低差があるため、住戸タイプや階層等も含めて、配置等について今後検討したい。

■川村財務部次長

廃校後、調理場を使う期間の、平成28年度から29年度について、体育館の使用はどうか。

■工藤市長

平成30年度に校舎と体育館を一括で解体し、市営住宅を建てるということを明らかにしたうえで、それまでの間であれば、体育館は使用しても構わない。

■谷口企画部長

体育館の使用については、廃校後の平成28年度から平成29年度までの2年度間において、暫定的に認めるということで、教育委員会にも伝える。

■工藤市長

今後は、財務部と都市建設部で協議し、敷地内における配置や整備スケジュール等について、検討を進めること。